

エイジレス ふくしま

本宮市の伊藤豊子さん(74)は民話の語り部活動をしながら、子どもたちに地元の歴史や伝統、逸話を伝えている。伊藤さんが企画し、編集に携わった「もとみやかるた」は、同市の名所や史跡、伝説を遊びながら学ぶことができ、子どもが郷土に親しむ教材になっている。伊藤さんは「地元の礎を築いた先人の足跡は面白い。歴史は教訓であり、財産だ」と話す。

「未来博」きっかけ

伊藤さんが民話や郷土史に興味を持ったきっかけは、2001年に須賀川市で開かれた「つづくしま未来博」の「からくり民話茶屋」に語り部として参加したことだ。伊藤さんは郡山市の民話「うねめ物語」を披露したが、県内各地から集った語り部の技量と地元への熱量に驚いた。「本宮を同じ熱量で語ることができるのか。地元をもっと知りたいたい」。地元に対する探究心は、

「地元の歴史を語りつないでいくのが私の役目」と語る伊藤さん。

かるたでつなぐ郷土史

本宮の伊藤さん

からくり民話茶屋の出演を機に熱を帯びていった。

伊藤さんは07年に本宮市の語り部でつくる「本宮わかしまの会」を設立し、積極的に語り部活動に取り組んできた。同会は11年、かるたで歴史に関心を持ち、地元で親しんでほしいとの思いから

「もとみやかるた」を開発。伊藤さんが中心となり、市内各地の伝説や習俗などを文献などで調べ、丁寧に短歌44首にまとめた。

同かるたは、気軽に遊びながら、地元の歴史や伝統などを幅広く知ることができることなどが評価されている。伊



藤さんを講師に招き、授業で活用する小学校もある。同市の英国訪問団が日本と同市の文化や歴史を紹介するため、現地の生徒と同かるたで交流したこともあった。伊藤さんは「何度も校正して完成した思い入れがある。大きく育ったのは感慨深い」と話す。

目標は昔話集発表

地元で愛されるかるたを生み出したが、歩みは止めない。次の目標は、地元の逸話や伝説を昔話集にまとめることだ。伊藤さんは「歴史をつなぐのが私の役割。創立20周年に『本宮物語』を発表し、子どもたちに読み聞かせたい」と笑顔で語る。(斎藤優樹)

▲ 2月15日 福島民友新聞掲載

伊藤さんが民話や郷土史に興味を持ったきっかけは何ですか。

「もとみやかるた」はどのような思いから開発され、どのようにまとめられましたか。

かるたはどう評価され、どう活用されていますか。